

主 文

本件上告を棄却する。

理 由

弁護人中村登音夫の上告趣意は、量刑不当の主張を出でないものであり、同坂本
三次郎の上告趣意は、量刑不当、審理不尽の主張に帰するものであつて、いずれも
刑訴四〇五条の上告理由に当たらない（憲法三七条一項にいわゆる「公平な裁判所の
裁判」の意義については昭和二二年（れ）四八号同二三年五月二六日大法廷判決、
集二巻五号五一一頁参照）。また記録を調べても刑訴四一条を適用すべきものと
は認められない。

よつて同四一四条、三八六条一項三号により裁判官全員一致の意見で主文のとおり
決定する。

昭和三〇年十一月二二日

最高裁判所第三小法廷

裁判長裁判官	島			保
裁判官	河	村	又	介
裁判官	小	林	俊	三
裁判官	本	村	善 太	郎
裁判官	垂	水	克	己